

# 平成28年度第1回山形県看護師等確保推進会議

日 時：平成28年10月24日（月） 14：00～16：00

場 所：山形県自治会館 4階401号室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 報 告

- (1) 平成27年度看護師等確保対策の実績及び平成28年度事業について **【資料1】【資料2】**
- (2) 各総合支庁の看護師確保の取組み **【資料3】**
- (3) 平成28年度看護師等確保に係る実態調査について **【資料4】**

### 4 協 議

- (1) 看護師等確保対策について  
「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」に基づく平成29年度の取組み  
**【資料5】**
- (2) 次期サポートプログラムについて **【資料6】【資料7】【資料8】**

### 5 そ の 他

### 6 閉 会

## 山形県看護師等確保推進会議（第1回） 出席者名簿

区分	団体（所属）名	役職	氏名	備考
大学	山形大学医学部	副学部長(兼)看護学科長	小林 淳子	委員長
	山形大学医学部	医学科教授	佐藤 慎哉	
	山形大学医学部	看護学科助教	進藤 真由美	新任
	山形県立保健医療大学	看護学科長	遠藤 恵子	新任
学校 養成所	国立病院機構山形病院附属看護学校	教育主事	林田 純子	
	山形市立病院済生館高等看護学院	教務主任	高橋 紀恵子	
	山形厚生看護学校	副学校長	那須 景子	新任
	篠田看護専門学校	教務主任	笹原 真理子	
	三友堂看護専門学校	副学校長	齋藤 郁子	
	鶴岡市立荘内看護専門学校	教務主査	佐藤 裕美	
	酒田市立酒田看護専門学校	副学校長	草刈 妙	
	山形県立山辺高等学校	看護学科主任	武田 美代子	
病院	山形大学医学部附属病院	看護部長	斉藤 律子	新任
	山形県立中央病院	副院長(兼)看護部長	片桐 千鶴	新任
	町立真室川病院	総看護師長	井上 典子	
	公立置賜総合病院	看護調整監(兼)看護部長	安部 弘子	
	日本海総合病院	副院長(兼)看護部長	佐藤 由枝	
関係 機関	山形県看護協会	常任理事	山川 祐美子	代理
	山形県医師会	常任理事	神村 裕子	新任
	山形県社会保険労務士会	副会長	浦山 一豊	
国	山形労働局	雇用環境・均等室長	青山 雄一	新任
県	山形県健康福祉部	医療統括監	阿彦 忠之	副委員長
	山形県病院事業局	県立病院課長	加藤 亮	新任
	山形県教育庁	高校教育課長補佐	曾根 伸之	代理

### ○総合支庁

- ・村山総合支庁保健企画課長 小笠原 寛
- ・最上総合支庁保健企画課長 阿部 真一
- ・置賜総合支庁保健企画課長 佐藤 仁
- ・庄内総合支庁保健企画課長 高橋 博美

### ○事務局

- ・山形県健康福祉部地域医療対策課長(兼)医師・看護師確保対策室長 大山 敏之
- ・同 医師・看護師確保対策室 室長補佐 菊川 和宏
- ・同 看護師確保対策主査 衣袋 久士
- ・同 主査 渡會 崇
- ・同 囑託 黒沼 涼子

## 「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」の主要施策について

## 1. 【学生の確保定着】

○ H29 達成目標：県内看護学生の県内定着率 70%台（全国平均）

県内看護師等学校養成所卒業生の就業状況

H28.3 卒業生 (人)	就業者数(人)			H27 県内定着率 (%)	【参考】		
	計	県内	県外		H26 県内定着率	H25 県内定着率	H24 県内定着率
430	394	266	127	67.8	60.9	64.2	68.3

※『看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査』（厚生労働省）による。

○ H29 達成目標：県外看護学生のU・Iターン者数 120人（H26実績比10%増）

県外看護師等学校養成所卒業生の山形県就業状況

	H26 U・Iターン 就業者数	【参考】		
		H25 U・Iターン者数	H24 U・Iターン者数	H23 U・Iターン者数
U・Iターン就業者数(人)	109	112	103	127

※『看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査』（厚生労働省）による。

## 2. 【キャリアアップ】

○ H29 達成目標：看護職員数に占める認定看護師数 1.30%（全国10位）

県内認定看護師数の状況（累計）

	H27 認定看護師数	【参考】			
		H26 認定看護師数	H25 認定看護師数	H24 認定看護師数	H23 認定看護師数
認定看護師数(人)	175	156	140	112	95
看護職員数に占める割合 (%)	1.19	1.06	0.97	0.78	0.68

※認定看護師数は『日本看護協会ホームページ』及び『日本精神科看護協会ホームページ』による。

## 3. 【離職防止（雇用の質の向上）】

○ H29 達成目標：新人看護師離職率 2%台（全国トップ）

県内新卒看護職員離職者の状況

新卒採用者(人)	新卒退職者(人)	H26 新人離職率(%)	【参考】		
			H25 新人離職率	H24 新人離職率	H23 新人離職率
314	16	4.5	4.0	4.2	6.3

※『山形県内病院における看護職就業状況及び勤務環境調査』（山形県看護協会）による。

## 4. 【再就業促進】

○ H29 達成目標：ナースセンター再就業率 30%台（全国5位以内）

山形県ナースセンター事業の実施状況

求職登録者(人)	再就業者(人)	H27 再就業率(%)	【参考】		
			H26 再就業率(%)	H25 再就業率(%)	H24 再就業率(%)
650	163	25.1	23.0	24.1	19.6

※山形県ナースセンター調べによる。

### 平成28年3月卒業者の県内就業(確定値)

	卒業数 (人)	就業者数(人)			H28.3卒 県内定着 率(%)	【参考】			
		総数	県内	県外		H27.3卒 県内定着 率(%)	H26.3卒 県内定着 率(%)	H25.3卒 県内定着 率(%)	H24.3卒 県内定着 率(%)
国立大学法人山形大学 医学部看護学科	60	51	24	27	47.1	36.8	38.3	42.2	44.2
山形県立保健医療大学 保健医療学部看護学科	49	48	28	20	58.3	45.3	52.6	55.2	40.0
国立病院機構山形病院 附属看護学校	37	35	21	14	60.0	47.5	60.0	58.8	73.7
山形市立病院済生館 高等看護学院	29	20	15	5	75.0	85.7	68.2	76.9	90.9
山形厚生看護学校	76	67	47	20	70.1	69.6	78.7	79.4	66.7
篠田看護専門学校	28	27	10	17	37.0	50.0	48.5	60.0	25.9
三友堂看護専門学校	45	44	41	3	93.2	86.1	78.9	94.9	93.5
鶴岡市立荘内看護専門学 校	16	15	14	1	93.3	61.1	76.2	94.1	84.2
酒田市立酒田看護専門学 校	28	26	17	9	65.4	68.0	82.6	83.3	—
山形県立山辺高等学校 看護科	38	35	29	6	82.9	70.6	53.1	41.2	48.0
鶴岡准看護学院	24	20	17	3	85.0	94.4	89.5	95.0	84.0
<b>合 計</b>	<b>430</b>	<b>388</b>	<b>263</b>	<b>125</b>	<b>67.8</b>	<b>60.9</b>	<b>64.2</b>	<b>68.3</b>	<b>61.5</b>

## 看護師確保対策費 一覧 (H27→H28)

事業名		開始年度	事業概要	H27当初 (千円)	H28. 9月 補正後 (千円)	増減 (千円)	前年 当初対比
看護師等確保推進会議		◎ H24	・サポートプログラムの推進・評価・検証を行う会議の開催	473	473	0	100.0%
第8次山形県看護職員需給見通し策定準備		◎ H26	・新たな看護職員需給見通し (H30～H35) の策定準備	0	2,690	2,690	皆増
学生の確保定着	看護師等体験セミナー事業	◎ H24	・看護師体験セミナー (高校生) ・地域医療体験セミナー (看護学生)	4,971	3,126	▲ 1,845	62.9%
	看護師等養成所運営費補助事業	◎ S46	・民間立等養成所に対する運営費の助成	87,365	80,396	▲ 6,969	92.0%
	看護実習指導者講習会	◎ H2	・看護実習施設における実習指導者の養成研修及びフォローアップ研修	2,968	2,891	▲ 77	97.4%
	看護師養成所等指導事業	—	・看護師養成所等に対する法令遵守指導の実施	71	80	9	112.7%
	旧看護職員修学資金管理事務	S37	・平成18年度に新規貸し付けを休止した看護職員修学資金に係る返還債権の管理事務	229	231	2	100.9%
	看護職員修学資金貸与事業【新規】	◎ H28	・休止していた修学資金貸与事業について、対象者の範囲や金額、免除要件等を見直して実施 【9月補正により貸与人数60名→80名】	0	36,538 +12,000	48,538	皆増
	看護職員Uターン促進事業	◎ H25	・県外就業者に対する本県看護情報提供 ・県看護協会HP改修等による、Uターン機能の強化	137	406	269	296.4%
キャリアアップ	看護師等キャリアアップ支援事業	◎ H24	・病院等に対する認定看護師養成経費の助成	30,000	20,000	▲ 10,000	66.7%
	新人看護職員研修担当者研修	◎ H23	・病院における新人看護職員研修担当者の養成	1,108	1,108	0	100.0%
	助産師出向支援導入事業	◎ H27	・県内医療機関の間の助産師出向調整	2,080	2,080	0	100.0%
離職防止	新人看護職員研修事業	◎ H22	・病院に対する新人看護職員研修費の助成	18,125	13,036	▲ 5,089	71.9%
	病院内保育所運営事業費補助	◎ S49	・民間立病院に対する院内保育所運営費の助成	55,258	53,890	▲ 1,368	97.5%
	医療勤務環境改善支援センター事業	◎ H27	・医療機関の勤務環境改善計画策定のサポート	1,820	1,202	▲ 618	66.0%
	ワークライフバランス推進事業	◎ H27	・医療機関のワークライフバランス推進のためのワークショップの開催	967	967	0	100.0%
再就業促進	ナースセンター事業	◎ H4	・看護師等の就業相談・斡旋等 ・ふれあい看護体験、eラーニングによる訪問看護師養成講習	25,786	24,665	▲ 1,121	95.7%
	看護学生フレッシュ説明会	◎ H25	・看護学生 (主に1～2年生) 等に対する県内病院説明会の開催				
	看護師等職場説明会	◎ H19	・看護学生 (主に新卒予定者) 等に対する就職ガイダンスの開催				
	再就業サポートガイダンス	◎ H24	・退職者等に対する再就業ガイダンスの開催				
	ナースセンター利用促進事業	◎ H21	・ハローワークとの連携によるナースセンター利用の促進 (出前相談会等の開催)				
	潜在看護師等掘り起こし事業	◎ H23	・マスメディアを活用した再就業に関する情報の発信				
	潜在看護師復職研修	◎ H24	・再就業希望者に対する臨床実務研修の実施	1,481	1,481	0	100.0%
	計			25,786	24,665	▲ 1,121	95.7%
合 計				232,839	257,260	24,421	110.5%

※ ◎は『山形方式・看護師等生涯サポートプログラム』対応事業

## 各総合支庁の看護師確保の取り組み

◆看護学生の実習受け入れ

管内にある看護学校・看護大学7校のうち、6校の実習を受け入れている。また平成26年度から、東京医科歯科大学の学生の受け入れを行っている。

【内容】

①全体オリエンテーション（1日：講義6コマ）

保健所業務への理解を深めてもらうため、全課室（5課2室：保健企画課、医薬事室、精神保健・感染症対策室、検査課、生活衛生課、地域健康福祉課、子ども家庭支援課）で講義を担当している。

〔今年度の実施予定：7校〕

山形大学医学部看護学科	県立山辺高等学校専攻科
県立保健医療大学保健医療学部看護学科	篠田看護専門学校
山形病院附属看護学校	山形厚生看護学校
東京医科歯科大学医学部保健衛生学科	

②個別プログラムによる実習（各学校の規定による日数）

保健所における実際の事業や相談業務等に参加し、全体オリエンテーションで学んだことをより深く理解してもらうため、所内各課の協力のもと個別実習を受け入れている。

〔今年度の実施予定：2校〕

山形大学医学部看護学科 ①公衆衛生看護学実習（2班：各3日） ②公衆衛生看護学統合実習（3日）	（受け入れの際の工夫） ・ 担当者から事業や事例について、より具体的な説明等を行うことにより、地域課題や実際の事業の流れ及び関係機関との連携等について理解してもらう。 ・ 実際の相談や健康教育などの場を体験することにより、理解を深めてもらう。
県立保健医療大学保健医療学部看護学科 ①公衆衛生看護活動学実習 （2班：各2日）	

【実習風景】

- ・ 入浴事故防止キャンペーン（実施日が土曜日であったため、業務の説明及び準備のみ実施）。





# 次代の最上地域医療従事者確保対策事業

## 最上地域の医療のパワーアップ

### 医師等医療従事者の確保と定着促進

#### 県全体の医師確保対策

○勤務医の過重負担軽減や勤務環境の整備など現下の勤務医師を大切に  
にする施策

- ・医療クランク人材養成等による配置促進
- ・分娩手当支給等負担の大きい診療科医師の処遇改善への支援

○短期的視点で医師を地域に定着させる施策

- ・臨床研修等ガイダンスの開催
- ・地域医療実習による研修医の県内誘導
- ・離職・退職医師の再就業斡旋(ドクターバンク事業)

○中長期的視点で医師養成等を支援する施策

- ・高校生対象の医学部進学セミナー(合宿勉強会、病院見学、医師講演等)
- ・修学資金制度、自治医科大運営参画による地域医療従事医師の養成・確保
- ・高校生を対象とした医師・看護師体験セミナー(平成23年度～(継続))
- ・最上・置賜地域を対象とした看護師等体験セミナーの開催支援(平成24年度～(継続))(再掲)

#### 【事業効果】

- ◆小学生…医師等の仕事を知り、早くから興味を持つことで、将来の夢として選択
- ◆中学生…安全安心な医療体制の継続には、多くの医療従事者が必要なことや、医療従事者としてのやりがいを知ることで、将来の医療職就業への意欲が喚起
- ◆高校生…希望する医療の仕事を知り、自分の将来像を明確にでき、医療従事者になるというモチベーションがアップ

#### 講習会(継続)

○医師等の医療従事者となることを志す生徒を対象に、「志を固め、実現を図る」ため、最上出身の医師等が、医療の仕事の内容、やりがい、体験談、受験対策、大学等での学習方法などを直接意見交換する座談会、講演会を開催。

- ・座談会(1回)  
医師・薬剤師を講師に座学(H28:18名)



#### 看護師等体験セミナー事業(地域医療対策課)

##### 高校生対象医療現場・福祉施設見学会(継続)

○より具体的な医療現場や医療従事者のイメージを持ってもらうため、管内病院内で実際に医療従事者の仕事に触れる医療現場見学会を実施。

- ・施設見学
- ・技術体験(心肺蘇生法、血圧測定等)
- 看護師・各種技師志望者対象(H28:17名)

- ・講演会(1回)  
最上管内生徒を対象にした、看護師・各種技師等による講習(H28:92名)

#### 職場体験学習の活用(新規)

中学生の職場体験学習先である医療機関に協力を依頼し、医療従事者を志している中学生に対し、最上地域の医療の現状や課題、看護師等体験セミナー等の情報提供を行うとともに、今後のフォローアップ(継続的なアプローチ)につなげていく。(H28:4校 11名、H28.10.24現在)

#### 講習会(継続)

○中学生が医師等の医療従事者を志す「動機づけ」のため、最上出身の医師等が医療の重要さとやりがいなどを直接説明する講演会を開催

- ・講師 医師、看護師、薬剤師、理学療法士等
- ・実施状況 H20:346名 H21:374名 H22:591名 H23:443名 H24:223名  
H25:323名 H26:484名 H27:371名 H28:222名(H28.10.24現在、今後の予定:52名)



#### 学習会(新規)

- ・小学校高学年を対象に医師等の医療従事者を講師として派遣
- ・医療の仕事(聴診、血圧測定、手洗い、白衣試着会等)の模擬体験
- ・実施状況 H28:9名(H28.10.24現在、今後の予定:32名)



医師等になる修学過程、修学支援等に関するパンフレットの作成・活用(継続)

フォローアップ(継続的アプローチ)

最上地域から医師等を輩出する環境づくり

【最上総合支庁】

#### 【目的】

最上地域から医師等を輩出する環境づくりを行い、医療従事者不足の解消を目指す。

医師等を目指す小・中・高生の動機づけを図る

◆医療の重要性、医療の仕事の魅力等を伝える

◆医師等になるための修学過程や修学支援制度を伝える



# 「もがみ看護師確保推進ネットワーク協議会」に係るH28年度の取り組みについて

## 最上地域の課題

- 看護師の量的不足  
看護師数（人口10万対）が全国・県全体を大きく下回る（最上地域：756.9人 県：958.6人 全国：855.2人）
- 看護系進学者数が伸び悩み…毎年40名程度
- 地元への就業者が少ない
- 管内の医療機関・介護福祉施設等において、今後看護師の需要が増大（右図：「最上地域における看護職員の将来需要等に関する調査」（平成27年7月最上総合支庁調べ）より）

## 看護師不足の実態

（回答施設：定数上90施設、体制上89施設） （人）

施設の種類の	定数上の不足人数	看護体制上の不足人数
病院	6	11
診療所	5	9
介護福祉施設等	10	54
<b>合計</b>	<b>21</b>	<b>74</b>

## 今後10年間の採用計画

（平成28年度～平成37年度、回答施設数67施設） （人）

	病院		診療所		介護福祉施設等		合計	
	人数	年平均	人数	年平均	人数	年平均	人数	年平均
看護師	153	15.3	23	2.3	161	16.1	337	33.7
准看護師	2	0.2	4	0.4	82	8.2	88	8.8
<b>合計</b>	<b>155</b>	<b>15.5</b>	<b>27</b>	<b>2.7</b>	<b>243</b>	<b>24.3</b>	<b>425</b>	<b>42.5</b>

## もがみ看護師確保推進ネットワーク協議会設立（平成28年3月2日）

### 目的

管内の関係機関によるネットワーク組織を構築し、密接な連携のもと、最上地域における看護師の確保・育成及び定着を推進

### 構成機関（全44機関）

平成28年6月26日現在

- 管内市町村
- 山形県看護協会
- 新庄市最上郡医師会
- 管内自治体病院・診療所
- 最上広域市町村圏事務組合
- 管内民間立病院（6施設）
- 管内介護福祉施設等（16施設）
- 新庄公共事業安定所
- 最上教育事務所
- 最上総合支庁



### 組織体制

## もがみ看護師確保推進ネットワーク協議会

会長 井上栄子（山形県看護協会会長）

### 幹事会

（事務局）最上総合支庁  
保健福祉環境部

幹事長 阿部千句美（最上町立最上病院総看護師長）

- 協議会の運営全般
- 協議会総会（年1回程度）の企画運営
- 各専門部会に係る全体総括



### もがみナース情報バンク専門部会

部会長 井上典子  
（町立真室川病院看護師長）

〈部会員〉  
山形県看護協会/新庄公共職業安定所/山形県看護協会最北支部/みすぎ荘/ひめゆり荘

管内看護師の確保・定着に向けた求人・求職情報の一元的集約と効果的な情報提供等

### 教育研修専門部会

部会長 柏倉純子  
（県立新庄病院副看護師長）

〈部会員〉  
最上町立最上病院/町立真室川病院/町立金山診療所

構成機関が連携した教育研修体制の構築等

### 介護福祉施設等専門部会

部会長 森きみえ  
（社会福祉法人舟和会  
えんじゅ荘看護主査）

〈部会員〉  
みすぎ荘/ひめゆり荘/新寿荘/翠明荘/紅梅荘/悠悠/まごころ荘/かつろくの里（みどりの大地）/福寿荘

介護福祉施設等における看護師確保対策等

## 今年度の取り組み状況（予定を含む）

### ○幹事会

- 〈第1回幹事会の協議内容〉（5月26日開催）
  - ・専門部会の設置及び各専門部会長の指名等について
  - ・幹事会の協議内容及び今年度のスケジュールについて
  - ・もがみ看護師確保推進ネットワーク協議会の目標設定について

〈今後の協議項目〉

第2回 （10～11月）	各専門部会の検討状況、達成目標等について
第3回 （1～2月）	各専門部会の検討状況、総会に諮る議題等について

### ○専門部会

部会名	第1回の主な協議内容	今後の協議項目 （第2回・第3回）
もがみナース情報バンク専門部会	（8/18開催） ・県ナースセンターとハローワーク新庄における求人・求職等の状況及び連携について ・各部会員の施設における求人方法及び潜在看護師の状況について	管内医療機関・介護福祉施設等の採用情報等の提供方法及び求人・求職のマッチング支援等について
教育研修専門部会	（7/20開催） ・部会各医療機関における新任期の教育研修体制の現状と課題について	新庄病院を中心とした研修体制（新庄病院が担える部会各医療機関の新任者研修）の構築について
介護福祉施設等専門部会	（7/8開催） ・各部会員の施設での看護職員の確保に係る現状と課題について ・今後必要な取組みについて	介護福祉施設に勤務する看護職の魅力発信方法等について

### ○「もがみ看護師確保推進ネットワーク協議会だより」の発行（別添）

第1号をH28年7月11日に発行し、協議会参画機関へ配布したほか、協議会のPRに積極的に活用

### ○総会（2～3月頃）

今年度の検討状況や達成目標、来年度の取り組み方向等について協議予定

## 平成28年度置賜保健所看護師確保対策

## 1 看護師の仕事を学ぶ学習会の開催（中学生対象）

→ 次回開催に向け、管内全中学校長に再度依頼済み。

	日 時	学 校 名	対 象 者	講 師
1	8月23日（火） 13:35～14:35	米沢市立第5中学校	2年生（95名）	米沢市立病院看護師

内容：看護師の仕事の内容、魅力について講話。置賜地域の看護職の現状等説明。

（翌日の山形新聞・米澤新聞の記事として掲載）

## 2 看護師体験セミナー（高校生対象）への協力

管内病院で開催する看護師体験セミナーで、置賜地域の看護職の現状説明や、資料、パンフレット等を提供。

## 3 看護学生実習受け入れ

	日 時	学 校 名	学 年（人数）	日 数
1	6月～7月	県立保健医療大学 看護学科	4年（12人）	2日間×2班
2	9月	山形大学医学部 看護学科	4年（18人）	3日間×2班
3	10月	山形大学医学部 看護学科（統合実習）	4年（3人）	3日間×3人

## 4 看護師等養成所の講師

	日 時	学 校 名	対 象 者	講 師
1	6月13日（月） 14日（火）	三友堂看護専門学校	2年（41人）	公衆衛生の概念、感染症とその予防、食品保健と栄養、生活習慣病対策、難病対策についての講義

## 5 看護職PRパンフレット（置賜保健所作成）の配布

管内全中学・高校、ふれあい看護体験実施施設等に配布。

## 6 保健所ホームページによる看護職についての情報発信

地域で活躍している看護師の仕事の様子、看護の魅力、やりがい等現場での看護師の声や姿を編集し掲載。

## 7 保健所窓口における看護師等届出制度の周知（届出制度の活用による就業支援）

各種手続きのために保健所に来所した方を対象に、県看護協会作成のチラシを配布し、届出制度及びナースセンターによる就業支援を周知（課内の各担当間で連携）。

表1 「看護師の仕事学ぶ学習会」等実施状況：中学生を対象

	学校名	対象者	担当病院	生徒の感想
H28.5.27 (金)	鶴岡市立 温海中学校	2年生 56名	市立 庄内病院	・大事な仕事だと、イメージが変わった。 ・看護はおもしろい仕事だと思った。 ・看護師に男性の人もいることに驚いた。
H28.6.3 (金)	酒田市立 東部中学校	2年生 101名	日本海 総合病院	・命に関わる仕事で凄と思った。 ・様々な資格で仕事をしていると知れた。 ・どんな仕事も自分の強い気持ちが大事。
H28.6.7 (火)	県立庄内 総合高等学校	希望者 12名	日本海 総合病院	・看護師になるために、勉強したいと思った。 ・看護師の仕事の厳しさと喜びが分った。
H28.6.9 (木)	酒田市立 第四中学校	2年生 174名	日本海 総合病院	・国家試験まで道が3つあり驚きました。 ・学校や施設に働いているの事が分った。
計	4校	343名		
過去の実施状況 (H24年度より実施)			H24年度：1校 87名 / H25年度：3校 403名 H26年度：4校 630名 / H27年度：3校(4回)668名	
H28.9.9 (金)	酒田市立 第四中学校	2年生 9名	職場体験時に看護体験を実施。 内容：血圧測定、身体計測、心音聴取（山大看護学生が協力）	

表2 「看護師体験セミナー」開催予定状況：高校生を対象

	対象者	会場	内容
H28.10.30 (日)	鶴岡地区の高校生 24名	市立庄内病院	一日コース ・講話「看護師の魅力について」 ・情報提供「看護師になるには」 ・実技講習（バイタルサインの測定、心肺蘇生法、 ベッドメイキング、各病棟での足浴等） ・懇談会（指導看護師との交流等）
H28.11.1 (火)	酒田地区の高校生 55名	日本海総合病院	
計	79名	2施設	

表3 看護学生 保健所実習受入れ状況

	学校名	期間	人数
6月2日～3日	県立保健医療大学看護学科4年生	2日間	6
8月1日	酒田市立酒田看護専門学校3年生	1日間	28
8月18日	千葉大学医学看護学科3年生	半日	2
9月7日～9日 9月13日～15日	山形大学医学部看護学科4年生	6日間(3日間2班)	10
計	4校	9.5日間	46名

表4 看護師等養成所への講師派遣状況

学校名	職員数(実人数)	延べ回数(時間)
鶴岡地区医師会鶴岡准看護学院	8	9日(50分×10回)
鶴岡市立庄内看護専門学校	4	5日(90分×5回)
酒田市立酒田看護専門学校	8	11日(90分×13回)
計	20	26日(28回)

平成 28 年度看護師等確保に係る実態調査に  
ついて

## 平成29年度の山形方式・看護師等生涯サポートプログラムについて

## プログラムの成果と課題

## 対応の方向

## 具体的な施策（案）

(平成29年度到達目標に向けた直近の実績)

<p><b>1 学生の確保定着</b></p> <p>①看護学生の県内定着率 【目標】70%台（全国平均） 【実績】(H26) 60.9%→67.8% ⇒ 県内定着率のUP、継続した対策の強化が必要</p> <p>②看護学生のUターン者増率 【目標】看護学生のUターン者数増10% 【実績】(H26) 109人 ⇒提供情報や発信のタイミングが重要</p> <p><b>2 キャリアアップ</b> 看護職員に占める認定看護師割合 【目標】1.30%（全国10位以内） 【実績】(H26) 1.06%→1.19% ⇒多くの分野において、キャリアアップが求められている</p> <p><b>3 離職防止</b> 新人看護職員の離職率 【目標】2%台（全国トップ） 【実績】(H26) 4.5% ⇒ 新人看護職員の離職防止対策の強化が必要</p> <p><b>4 再就業促進</b> ナースセンターによる再就業率 【目標】30.0%（全国5位以内） 【実績】(H26) 23.0%→25.1% ⇒ 再就業率の維持向上を図る</p>	<p><b>1 学生の確保定着</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学生の確保定着策の強化</li> <li>・県外学生及び県外就業者を県内に呼び戻すためUターン支援の強化</li> </ul> <p>⇒ 看護師不足の実態や学生ニーズ、Uターン支援の観点を踏まえた修学資金制度を継続</p> <p><b>2 キャリアアップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師の計画的な育成等により、看護の質及びモチベーションを向上</li> <li>・様々な分野で活躍する看護職員の質向上と確保</li> </ul> <p><b>3 離職防止</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新人看護職員のリアリティ・ショックの緩和</li> <li>・子育てをしながら働き続けられる環境作り</li> <li>・いきいき働き続けられる職場環境づくりを支援</li> </ul> <p><b>4 再就業促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師等の届出制度を活用し、届出者への情報提供・就業あっせん・復職研修等の支援を強化</li> </ul>	<p><b>1 学生の確保定着</b></p> <p>『看護職員修学資金貸与』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内医療機関などで一定期間勤務すれば全額返済免除</li> <li>・県内外の看護学生を対象に実施</li> </ul> <p>『看護職員Uターン促進』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外就業者の帰省時期に合わせた相談会の地域展開 <b>【新規】</b></li> <li>・県外就業者に対する本県看護情報提供</li> </ul> <p>『地域医療体験セミナー』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生を対象にした県内医療機関と連携した体験セミナー</li> </ul> <p>『看護師体験セミナー』 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高校生を対象にした看護師学校養成所や、県内医療機関での体験セミナー</li> </ul> <p><b>2 キャリアアップ</b></p> <p>『認定看護師の養成支援』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院等に対する認定看護師養成経費の支援</li> </ul> <p>『小規模施設従事者研修事業』 <b>【新規】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT研修が難しい小規模施設従事者のための集合研修</li> </ul> <p>『助産師出向支援』 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内医療機関の間の助産師出向調整</li> </ul> <p><b>3 離職防止</b></p> <p>『新人看護職員研修費補助』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院に対する新人看護師研修費の支援</li> </ul> <p>『病院内保育所の運営補助』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間立病院に対する院内保育運営費の支援</li> </ul> <p>『医療勤務環境改善支援センターの運営』 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関の勤務環境改善計画策定のサポート</li> </ul> <p><b>4 再就業促進</b></p> <p>『ナースセンター利用促進』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークとの連携による利用の促進</li> </ul> <p>『潜在看護師復職研修』 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスメディアを利用した再就業促進</li> </ul>
---	---	---

次期サポートプログラム策定のスケジュール（案）

	平成28年度（2016年度）				平成29年度（2017年度）				平成30年度（2018年度）			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
地域医療構想		策定										
第8次山形県看護職員需給見通し					国からの需給推計ツールによる作成予定							
看護師等サポートプログラム		第1回委員会	第2回委員会		第1回委員会	第2回委員会						
		新たな検討課題の提示	現状と課題を踏まえた新たなプログラムの方向性の共有		新たなプログラム素案協議	新たなプログラムの策定						

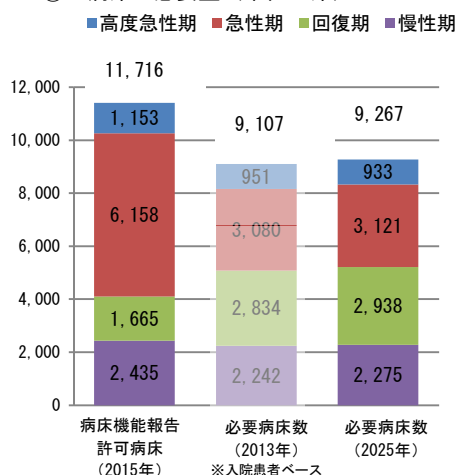


# 山形県地域医療構想の概要について

- 団塊の世代が75才以上の後期高齢者となり、医療や介護に大きなニーズが見込まれる2025年を見据えて、平成26年6月に「医療介護総合確保推進法」が成立。
- 都道府県は、将来の医療需要と必要病床数を示すとともに、目指すべき医療提供体制を実現するための施策を内容とする「地域医療構想」を策定することとなった。
- 構想策定後は、構想区域ごとに地域医療構想調整会議を設け、関係者間の連携を図りながら、構想の達成を推進するために必要な協議を行い構想の実現に向けた取組みを進める。

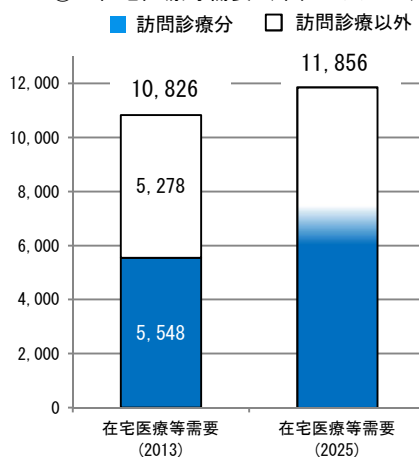
## 1 本県における地域医療構想

### ① 病床の必要量 (単位: 床)



※「病床機能報告」の内訳については、「休棟等」があるため合計と一致しない。

### ② 在宅医療等需要 (単位: 人/日)



※2025年については、在宅医療等の受入体制の状況により内訳が変化するため全体数のみを明示

### 現状と課題

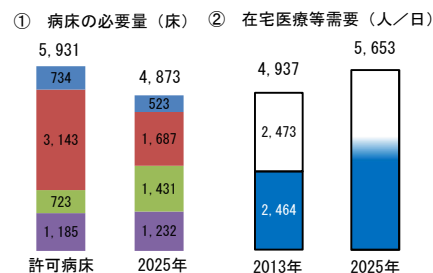
- 急性期病床が過剰、回復期病床が不足している。
- 非稼働病床や稼働率が低い病床、在宅療養が可能な患者の入院が見られる。
- 後期高齢者人口の増加に伴う在宅医療等需要の増加に対し受入体制が不十分である。
- 訪問看護や看取りなど在宅医療に対する県民の理解が不足している。
- 県内の医師、歯科医師、薬剤師、看護職員等が不足している。

### 課題解決のための施策

- ① 病床機能の分化・連携**
  - ・ 急性期病床から回復期病床等への機能転換
  - ・ 専門性や難易度が高い治療の集約化と広域連携による病床規模の適正化
  - ・ 「地域医療連携推進法人」の活用も含めた病院等の病床機能間の連携
- ② 在宅医療の拡充**
  - ・ 自宅以外でも医療・介護が受けられる多様な居住環境の整備や居宅サービスの充実
  - ・ 医療・介護従事者、住民などへの在宅医療に関する理解の促進
- ③ 人材の確保・育成**
  - ・ 山形方式・医師及び看護師等生涯サポートプログラムに基づく人材確保・育成
  - ・ 山大と連携した新たな専門医制度への対応

## 2 構想区域における地域医療構想 (第6次山形県保健医療計画における二次保健医療圏)

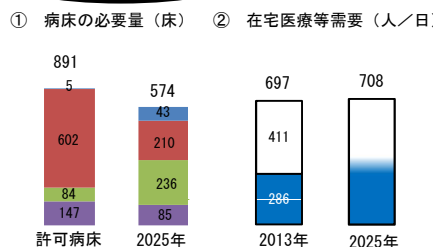
### 村山構想区域



#### 【主な課題と施策】

- 三次医療機関を中心に、特に高度な医療等については、区域内及び最上・置賜構想区域との連携体制を構築する。
- 西村山・北村山地域においては、施設の老朽化により建替時期の迫っている病院があり、それぞれの地域における基幹病院では、診療機能を地域に必要なものに重点化したうえで、病床規模の適正化を進めるとともに、非稼働病床や病床利用率の低い病棟を有する病院においては、回復期機能への転換と病床規模の適正化を進める。
- 在宅医療等需要が大幅に増加することから、在宅医療に取り組む医療・介護事業所数を拡大する。

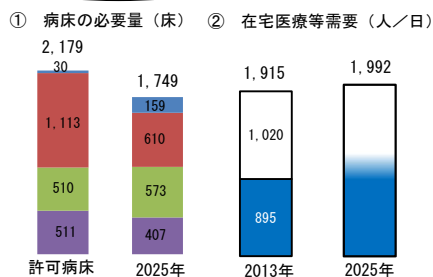
### 最上構想区域



#### 【主な課題と施策】

- 県立新庄病院の改築整備に際して、区域内の病院・診療所との連携及び機能分担や二次医療圏を超えた広域的な連携体制の構築について、病床規模を含め検討する。
- 非稼働病床や病床利用率の低い病棟を有する急性期機能を担う病院においては、地域に必要な診療機能に重点化するとともに、病床規模の適正化を推進する。
- 訪問看護の対象エリアが広いこと、病院及び訪問看護事業所間の連携やサテライトの設置などを検討し、訪問看護体制を強化する。

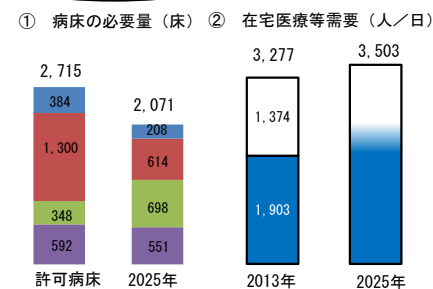
### 置賜構想区域



#### 【主な課題と施策】

- 米沢市、東置賜・西置賜地域それぞれに建替時期の迫っている病院が多く、それぞれの地域において、基幹病院等を中心に急性期機能の病床を集約し、基幹病院以外の二次医療機関を中心に回復期機能の病床を確保していく。
- 非稼働病床や病床利用率の低い病棟を有する急性期機能を担う病院においては、地域に必要な診療機能に重点化するとともに、病床規模の適正化を推進する。
- 訪問看護事業所の多くが小規模であることから、夜間・小児・精神疾患などへのサービス拡充に向け、病院及び訪問看護事業所間の連携強化を図る。

### 庄内構想区域



#### 【主な課題と施策】

- 北庄内・南庄内地域のそれぞれの基幹病院等を中心に急性期機能を集約化し、一部の特に高度な医療を除き区域内で完結できるよう役割分担や連携体制を構築する。
- 非稼働病床や病床利用率の低い病棟を有する急性期機能を担う病院においては、地域に必要な診療機能に重点化するとともに、病床規模の適正化を推進する。
- 在宅医療等需要が増加することから、地域医療情報ネットワークの参加施設の拡大を図り連携を強化するとともに、在宅医療に取り組む医療・介護事業所数を拡大する。

## 今後、検討が必要な課題（例示）について

- ◎ 地域医療構想に示されたとおり、今後、病院の病床数の変化に伴う看護需要の変動や、後期高齢人口の増加に伴う在宅医療等の需要の増加が見込まれる中、病院や診療所、訪問看護事業所などにおいて、地域医療を支える看護職員の安定的な確保と、質の向上などが求められる。

### 【総数の確保】

- 少子化が進展し、15歳未満人口（年少人口）が減少する中で、看護師等養成施設・学校への入学者数の確保や質の確保に影響を及ぼすことが懸念。
- 今後も質の高い看護職員を確保、育成するためには、看護基礎教育の充実を図るとともに、卒業生の県内就業を促進していくことが必要。
- 病床機能の分化・連携を進めていく上では、看護教育の段階から在宅医療等に関する理解促進を図ることが必要。

### 【質の向上】

- 質の高い医療を提供することはもとより、モチベーションを維持し就労継続していくためにも、看護職員の資質向上は不可欠。
- 急性期から回復期、在宅医療まで切れ目のない医療供給体制を構築する上では、地域の看護職員が、退院支援、日常の療養生活の支援など在宅医療に必要な知識・職務遂行能力を身に付け、互いに連携していくことが重要。

### 【離職防止・再就業促進】

- 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現し、看護職員が生涯にわたり就業を継続していくためには、今後とも子育てや介護をしながら安心して働き続けられる職場環境づくりへの支援が必要。
- 結婚や育児等でいったん退職した方が再就業できる仕組みづくりが必要。